

番 号	題 名		
陳情第2号	府内こどもルームの利用再開を求める陳情		
提出者 住所 氏 名	大分市中島西2-1-6-1205 府内こどもルームの利用再開を望む会 代表 松成 絵美 署名：1,646名		
受理年月日	平成28年6月17日	付託委員会	厚生
要 旨	<p>平成28年4月14日の熊本地震により、4月19日から府内こどもルームが休館となっている。その後も再び熊本県で地震が起き、今後も地震などの災害に備えて暮らしていくことには変わりなく、全面的に安全・安心とは言いがたい事実はあるが、本市における余震の被害や影響は減少しており、震災前の日常を取り戻してきている状況である。</p> <p>そのような中、今もなお府内こどもルームの利用ができないことにより、周辺地域に居住する子育て世代が、強く不便さを感じている。</p> <p>子育て支援課へ問い合わせを試みても、ホルトホール大分内の中央こどもルームの利用を勧められるのみで、簡単な回答しか得られない。このまま荷揚町小学校の閉校に伴い、府内こどもルームが閉館の流れになることを感じずにはいられない状況である。</p> <p>子供たちが子供らしくのびのびと遊び、学べる場所が減らされていくことは、子供たちの笑顔が奪われていくようで大変残念に感じられる。</p> <p>府内こどもルームの利用者の多くは、一日も早い府内こどもルームの利用再開を望んでおり、その理由は以下のとおりである。</p> <p>1. 立地と地域のかかわり</p> <p>中央官庁の近隣に立地することで、公共交通機関でも自家用車、自転車でもアクセスしやすい場所に設置されている。家族での市街地への外出時でも立ち寄りやすく、祖父母とともに散歩を兼ねて向かう際にも適した立地である。</p> <p>また、荷揚町小学校区や中島小学校区からも徒歩圏内であり、この地域の学区において、子供は減少したと言われながらも、いまだに少なくない子育て世代が居住している。公園が少ないこの地域にとって、身近に府内こどもルームがあることは、子育てをしやすい環境である大事な要素となっている。</p> <p>2. 施設の特性</p> <p>府内こどもルームは幼稚園の跡地を再利用した施設である。それゆえ、屋内遊具に加え、屋外には砂場、滑り台、ジムなどの遊具があり、縄跳びやかけっこをすることも可能な園庭の広さがある。夏になれば水遊びができ、外で遊びながら暑さや寒さを感じられる。園庭にあらわれる虫や植物に触れ、四季の移ろいを体感し、学ぶことができる。皆でチューリップの球根を植えたり、餅つき大会で餅をついたりしたことは、社会性、協調性を養うことにつながった。また、その季節・時期に応じた行事、日本の文化や伝統行事にも触れることができ、親子で楽しみ遊びながら学びを得ることができる。</p>		

### 3. 先生方との交流

勤務している先生方も、子育て世代に近い目線で接してくれ、親にも子供にもよく話しかけてくれる。府内こどもルームは、その立地から、転勤により大分市に転入してきた家族も多く見られる。親の中には、頼れる身内や友人の少ない中で、孤独さを感じながら育児に臨んでいたところを、府内こどもルームの先生に声をかけてもらい助けられたという話を多々耳にしてきた。

私も育児の相談に乗ってもらい、子供の成長と一緒に喜んでもらえたりすることで、我が子と向き合う励みをもらうことができた。

以上の点から、府内こどもルームは大分市内の子育て世代とその子供たちにとって、憩いの場、心のよりどころであり、地域に必要な施設であることに疑いの余地はない。今回のような震災や火災などを想定した避難訓練は、府内こどもルームで毎年行われてきた。熊本地震が起きた後だからこそ、子供たちの心のケアや親子が向き合い過ごせる時間が必要であり、そのために必要な場所の一つが府内こどもルームである。

これまで多くの子供たちが卒業していった府内こどもルームの存在は、そこで出会える先生方、子供たち、親たちの心のつながりとして、励みや糧となり、これからも乳幼児期から学童期にかけて社会性を育む重要な場所である。

以上のことから、一日も早く府内こどもルームの利用を再開していただきたく陳情する。